



保育の魅力

玉名郡保育連盟



保育教諭 4 年目

コロナ禍で様々な行事が中止される中、お楽しみ会（夏祭り）が規模を縮小されて行われました。

翌日の帰り際に一人の女の子から「ありがとうございました」と絵のプレゼントを手渡されました。かわいい絵に癒されながら、裏返してみると「子どもたちに夏の思い出をありがとうございました」とメッセージが記されていました。改めて保育士になってよかったな！

また明日からも頑張ろうと思える心温まる日になりました。



保育士11年目

“第二の母のように”を目標に日々を子ども達と向き合う中、2歳の誕生日を迎えられた日の連絡ノートに「園でも温かく接して下さる先生方のおかげで、無事に2歳を迎えることが出来ました。ありがとうございます。」とうれしいお言葉を保護者からいただきました。その一文に、改めてご家族の方々と共に大切なお子様の成長に携われている喜びを実感することができ、嬉しい1日でした。



保育士13年目

家庭の都合で、途中退園をされた0歳児の男の子のお話です。保育園最後の日の朝、男の子の荷物の中を見た瞬間、先生は涙が溢れだしました。なんと、オムツ一枚一枚に「今までありがとう」「先生、大好き」「遊んでくれてありがとう」「楽しかったです」「僕、大きくなります」とお母さんからの心温まるメッセージが・・・たくさんの思い出ありがとう。私たちの保育園で語り続けたい物語の一つとなっています。



保育士11年目

入園し、なかなか笑うことが出来なかった男の子。気になってはいましたが普段と変わらず、毎日の保育を行う中で、沢山話しかけ・笑顔で接していくうちに少しずつ笑顔が見られるように…。そして、半年がたったある日「おいで～」と声をかけ手を広げて待っていると今まで見せたことのないとびっきりの笑顔で私の胸の中に飛び込んできてくれました。その笑顔は今でも忘れられず心に残っています。保育士になれて本当によかったと思う瞬間でした。



保育士13年目



年長組を担当した時の、一人の女の子とのほっこりエピソードです。
進級したての頃は内気で傷つきやすく、涙を流す事の多かった子が卒園間近に1冊の絵本をくれました。その絵本には、1年間での心の変化が書かれていました。今まで沢山の絵本を見てきましたが、今はこの小さくて心のこもった絵本が宝物です。保育士という仕事を通してこども達が数年後どう成長しているのかそれを楽しみに出来る、今まで出会ったこども達の数だけ楽しみがある事がこの仕事の良いところだと思います。

保育士4年目

コロナウイルス感染予防のため行事が変更される中に頂いた保護者からのおたよりです。『全ての行事がいつも通り当たり前の流れで行えないこのご時世に、先生方の精一杯の努力で、色々な行事が別の形で出来ている事が、逆にものすごく思い出に残りジーンと来る日々を過ごさせています。ありがとうございます。』日頃から大切にしている職員のチーム力や保育の工夫という私たちの思いをお届けできた事が有難かったです。



保育士12年目



毎年行ってきた祖父母さんとの七夕の集い。今年は、園へご招待し交流が出来ない為、自分で作った七夕飾りと一緒に写真をお手紙にして祖父母宅へ送った。すると、コロナウイルス感染予防の為だけでなく、遠方にて滅多に合うことの出来ない孫からの手紙にとっても喜んで頂き、保育園へ直接お礼のお手紙も頂いた。出来ない事を嘆くだけでなく、どうにか工夫していく事で、もっと良い結果が生まれる事もある、そう思えた出来事だった。



保育士15年目

私たちの保育園には、職員間で共有しているエピソードノートがあります。子どもたちの良いところ、子どもならではのつぶやきなど、いつも子どもたちと一緒に過ごしている保育士だから気付くことができる子どもたちの魅力を発信・共有し、明日への意欲を高めています。また、このノートに集まるエピソードは、園だよりなどで保護者にも紹介し、子どもたちの良いところを伝えることで、保護者の子育てを支える手立ての一つとしています。エピソードノートのページが書き込みと共に増えていき、私たち保育士が子どもたちの魅力に日々気付いて保育の仕事にさらにやりがいを感じる事が出来れば良いと思います。子どもたちと一緒に過ごす日々は、小さな成長を感じたり、小さな発見の繰り返しを積み重ねる時間です。それがいつの間にか大きな喜びとなって、自分自身の成長につながっていくと思います。

保育士18年目

「保育士」という職業を志した時、ぼんやりと“働くお母さんのお手伝いができたらな…”と考えていたことを覚えている。

そして今、わたし自身3人の子育てをしながら保育士を続けている。子どもたちは職場とは別の保育園にお世話になっていて、あと2年で3人目もとうとう卒園を迎える。今までの子育ての中で、心に残る連絡帳のやり取りや担任の先生からのアドバイスで、どれだけ助けられたことか。自分の子育てを通して「保育」は子どもを育てるだけでなく、その背景にある家庭の支えになれるのだということを身をもって痛感した。

これから出会うパパやママたちへ、どれだけサポートできるかわからないが、頑張る人の味方になれる保育士でありたいと思う。



保育教諭 4 年目



保育士になって2年目に3歳児担任になり、一人の女の子Aちゃんとお出合いしました。Aちゃんは給食が苦手で、偏食もありました。給食の時間が来るといつも泣いてしまい、私自身Aちゃんに関わることは勿論、子どもとの関わり方にも悩んで、どのようにしたらいいのか模索している状態でした。Aちゃんにはまず完食ではなく、一口でも食べることができるようにを目標とし、一口でも食べることが出来たらたくさん褒め、認めてあげることから始めると、自身がつき、段々と完食してくれるまでになりました。お母さんにも毎日話すように努めていました。進級まじかのある日、お母さんから「先生方のおかげで娘が野菜を食べてくれるようになりました。ありがとうございました」と言って下さった時は、毎日とても悩み苦労したことだったけれど「ありがとう」の言葉が嬉しく、悩んだ事も無駄ではなかったと感じることが出来て、保育士として成長出来ているかなとも思いました。

保育教諭3年目

保育士1年目の秋に担任していたA君に弟ができた。(妊娠された)
感情を表に出すことが苦手なA君だったので、一人で我慢していないかな？
家庭では大丈夫かな？と心配していた。するとお父さんも気になっていたようでA君の一日の様子を聞いてこられるようになった。その後、嬉しかった出来事や、失敗した事も細かく話すようになった。そして、無事に弟さんが誕生し、A君も嬉しそうに園で話してくれるようになった。

ある日、お父さんがお迎えに来られた時、「兄の事を心配してくれてありがとうございます。兄が卒園したら是非弟も先生に見て欲しいです。」と素敵な言葉をかけていただいた。保育士って素敵な仕事だなととても幸せな気持ちになった。一生忘れることはないですし、ずっと宝物にしたいなと思った。



保育教諭3年目

日々慌ただしく過ごしていますが、子ども達の成長に嬉しさや感動を覚えます。
その度にやっぱり「子どもが大好きだと改めて感じます。

保育士一年目に担任していた年少児が年長になり、2度目の担任を任せて頂いた際に
「来た！先生とだ！」 「先生！大好き！」 「一緒になれて嬉しい！」と子ども達が言ってくれました。当時とても嬉しくて保育士やってて良かったと思った瞬間でした。ふとした時に思い出すその場面は私の心の糧になっています。



保育教諭 2 年目

保育教諭 1 年目の 3 月、初めて担任を務めたクラス（3 歳児）の子ども達一人ひとりに私から進級お祝いを兼ねて、メッセージカードをプレゼントしました。子どもから「ありがとう！」 「大切に作るね！」等 嬉しい言葉をたくさんもらいました。



それだけではなく、子ども達から私の似顔絵を描いた手紙や折り紙を折って、持って来てくれました。保護者の方からもメッセージカードを読んで下さり、1 年間の感謝のお言葉を頂きました。

子ども達の成長を実感できた 1 年間だと思いました。